
鬼探し

T・K・Westfence

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼探し

【コード】

N6226Q

【作者名】

T・K・Westfence

【あらすじ】

「鬼探し」。節分に鬼を探そうと言い出した友達に引きずられてまた妙な一日が過ぎる……
超短編。

(前書き)

節分なので。あんま関係ないけど。

グダグダですが、結構気に入ってます。

そのうちこの4人で別の話書くかもです。

「鬼って、どんな姿なんだろう。」

節分の日、正太しょうたくんはこんなことを言い出した。

「そりゃアレだろ、きつとすごい美少女で、豆ぶつけられて泣き出しちゃうんだよ。そこに俺が助けに入っつて、あんなことやこんなことを〜」

「黙れ。」

俊之としゆきが妄想を始めた光ひかるをゴツンと殴る。光はこういう妄想癖もうそくへんきがあつて、時々暴走する。

「でもさ、会つてみたいよね、鬼。」
僕も言い出す。

「泣いた赤鬼に出てくるような鬼だったら会つてみたいしさ。」

「うわ、懐かしい話出てくるな〜あいかわらず。」

「え、懐かしい？ 光何歳？」

「あんな感じなのかな……………」

あれ、なんか正太くん本気で考えてるよ。

「鬼、なあ。まあいたら面白いだろうけど……………」

俊之まで……………ちょっと待った、この流れは、

「なあ、じゃあさ〜」

……………まさか。

「鬼、探しに行こうぜ!」

そのまさかだった。光はこういうことを言い出す。そして正太くんと俊之は……………

「そうだね。」

「おう、面白そうだ。」

こういつのに、ノリがす〜くいいんだ。

「鬼は内〜、鬼は内〜。」

「……何やってんの光。」

「え、もちろん豆まきだぜ?」

「いや、掛け声逆だよね。」

「鬼呼ぶんだろ?」

「まいてる豆は?」

「エサだよ。」

「……ため息しか出ない。こいつは鬼をハトか何かと勘違いしてるらしい。」

「というか、ほんとに変なの出てきちゃったらどうするんだよ!」

「そのときは、なんとかする!!!……俊之が。」

「人任せかよ!」

「しかも俺かよ!!!」

素早い。ありえないくらい俊之の反応が素早い。僕のツツコミから0.002秒ぐらいだったぞ? 早すぎるだろ。

「美少女の鬼でてくるといいんけどな〜」

「おい、なんか言葉づかい変だぞ。」

結局、鬼は見つからなかった。まあ当然だよな。

「これで見つかったらそこから連載なのにな〜」

「レンサイ?」

光は自分が読みきり小説か何かの中にとでも思ってるのだろうか。そして正太くん突っ込み所ずれてるよー!

「まあ、いつものことだろ?」

そう、いつものこと。グダグダな会話から光が何か言い出し（しかも変で非現実的なことを）、俊之と正太くんが同意して僕が巻き込まれ、そして何も起きない。ここまで全部いつもどおりだ。

「ま、俺らはずっとこうなんだろうな〜。」

そう、光の言うとおり。きっと僕たちは、これからもこんな調子で何かやりつつ、平凡な日常の中で愉快に奇抜に生きていくのだ。みんな一緒に、ね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6226q/>

鬼探し

2011年2月3日22時38分発行